今はなき分会をしのび
感激の再会を果す
元、宮前（万田）分会員53人が集う

三池闘争を共にたたかった仲間五十三人が、小雨まじりの寒い二月十二日、大牟田のはら会館に集まり、午後一時から元宮前分会記念集会が盛大に開かれました。

宮前分会（荒尾市万田社宅）はすでになくなりました。この日は実行委員会の呼びかけで、遠くは名古屋から、そして九州も宮崎、太宰府、佐賀、熊本の各地から、地元の大牟田、荒尾の各地へ転居されたOB、現役が二十数年ぶりの再会の感激がただよう会場にはせ参じました。

舞台正面には分会旗が掲げられ、古庄実行委員長のあいさつにつづいて、闘争時の流矢元分会長の声で、これまでに亡くなられた方たちの黙とうをささげました。流矢さんの当時をしのびながらの静かな語調ながら、力強いあいさつに深い感銘をうけた第一部の式典も終わり、分会最後の分会長だった松田さんの乾杯の音頭で祝宴に入りました。

はら会館社長からの大杯をまわし、自己紹介では再会の喜びが胸にこみ上げ、感激の涙で言葉につまる一面もあり、当時を語り合いながらの盃のやり取りが続きました。

やがて、この日のためにと練習した主婦たちによる舞踊の披露、手拍子、足拍子よろしく炭鉱節が会場から舞台へと宴を盛り上げ、カラオケに合わせてノド自慢の競演、さらにダンス、踊りが披露され、肩を組み、寄せ合いながらの合唱、それぞれのかくし芸が時の流れを忘れさせました。

和気あいあいのうちに集会はつづきましたが、やがて各人に、はら会館社長から色紙が贈られ、うどんのように太く長く生き続けようと全員うどんの味をかみしめ、『炭掘る仲間』を合唱し、この集会が意義深く実りある集会であったことを互いに確認し合いながら、再会を約しての団結頑張ろうで幕を閉じました。

お互いにこんごのご健康とご多幸をお祈りし、この集会の成功のためにご協力いただいたことに心からお礼申し上げます。（この項四小校区地域分会　山口敏明記）

強制連行朝鮮人の記録から　第十回
露頭坑大谷訓練所朝鮮人社宅

十六分会　武松輝男

大牟田市、荒尾市、それに三池郡高田町に、三池炭鉱の集団社宅が散在している。それらの集団社宅の中で、土地名やあるいは字名で呼ばないで、北海道という俗称で呼ばれる社宅が二カ所あった。

北海道と呼ぶのは、町から離れていて遠くにある、ということを言いあらわすために用いられていたものらしい。らしいというのは俗称で呼ぶためのたしかな証拠というのが見当らないからである。

その北海道と呼ばれた一つに、勝立東谷社宅があった。勝立北海道といわれていた。いまは市に譲渡されて分譲され、新しい市営東谷団地に生まれかわっている。

もうひとつの北海道は、強制連行朝鮮人が居住した歴木高取にあった大谷社宅を指していた。大谷北海道とも呼んでいて、ここもいまは造成されて、希望ケ丘団地になりかわっている。

この、かつての大谷社宅を朝鮮人収容社宅にしたのが、昭和十六年であった。この社宅も、前号で紹介したように、露頭坑大谷訓練所朝鮮人社宅といった。

この朝鮮人社宅は、八畳一間に棚付きの押し入れがついただけのもので、一棟が六戸建てになっていてそれが五棟あった。

多分、夫婦者が収容されたであろうと思う。別棟に女湯のスペースが男湯のスペースよりも広い浴場をもっていたから。

ここに収容された朝鮮人も、露頭坑で働かされている。

この地は、享保六年に開坑された平野山炭山の一部で、小谷坑、大谷坑が柳川藩家老小野氏の所有坑として栄えたところである。その大谷坑の東側の今山には三池藩主が開削した生山坑があって、三池炭山ではじめて生山登治（コークス製造所）が造られていた。

露頭坑というのは、いわば露天掘りと同じような採掘方法をとった炭坑で、かつての大谷坑と生山坑の間の、やや大谷坑寄りの南側に開削された炭坑であった。第二次大戦中は、軍需物資石炭の増産のために採掘されたが、終戦のあと間もなく閉山している。

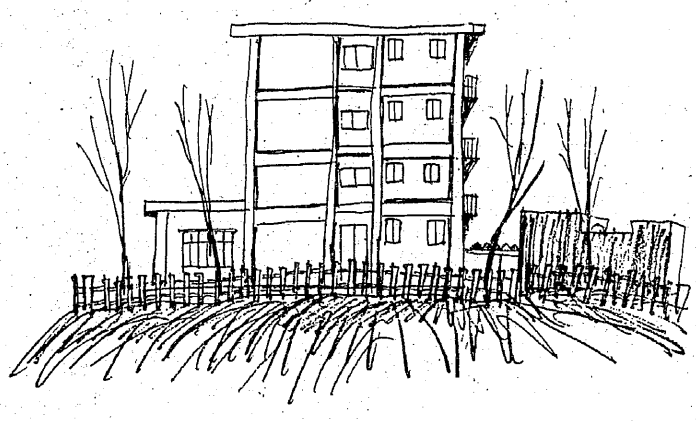
いま、この地を訪れて、かつての朝鮮人収容社宅を思いうかべようとしても、その面影すら残さないように様替りしている。多分、灌漑用に人びとの手で造られたのであろうと思われる南井空第二堤を取り囲んでいる赤茶けた土の色だけが、朝鮮人労働者の苦渋を奥深くしみ込ませているように思えるだけである。

その土地に、いまは小ぎれいなそして瀟洒な家が建ち並んでいる。

そこではかつて、異郷の地で石炭採掘という重筋労働に従事しながら、日本の、産業と生活の進歩と繁栄を支えた朝鮮人たちが、困苦と蔑視に耐えていたのである。その苦しみを、いま誰がわが心の痛みとしてとらえ、計り知ろうとするだろうか。

差別を受けた者のその苦しみ、蔑視され、ないがしろにされた者の、そこからにじみ出る辛酸を、どうやって理解するか。二重音声のテレビ、音量調節の自由なステレオ、クーラーのついた自動車、指先の操作だけで動くバイク。そのどれをとっても、現代機械文明の繁栄を見ることができる。瀟洒な造りの家々には、ほぼすべて現代機械文明の繁栄の証しが揃っているであろう。だが、非常に不思議なことに、その機械文明は辛酸をなめた歴史から、目をそむけさせる力をもっているように思えてならないのである。

（カットも筆者）



俳句
もがり笛　勝本静波

これは炭坑の男達への貧しい鎮魂の詩です。

天地凍て炭坑（ヤマ）のサイレン鳴り止まず
救急車飛ぶ極寒の闇ひき裂き
続々と昇坑る担架に雪しまく
担架凍てすでに動かぬ男乗せ
ヘルメットころがり坑口（マブ）の雪くろき
こおりつく雪や主なきヘルメット
坑口凍てぬ息をころせる貌（カオ）犇めき
もがり笛夜も日も冥き炭坑なりけり
凍星こぼすなみだかささめ雪
炭坑の灯のまたたくへ雪凍りつく
吹雪く中担架かきゆく我を見き
凍て果てし心吸いこむ坑口（マブ）冥き
はらからの嗚咽か炭坑（ヤマ）のもがり笛
炭坑凍てぬ戸毎に通夜の鉦ひびき
み魂呼ぶ鉦打ち鳴らす雪の坑口
喪の炭坑に夜をこめて雪降り積もる
もがり笛神や仏はどこに在る

勝本静波さんは久留米市津福本町九四六の二にお住いで、有明鉱災害のテレビを見て作句されたそうです。福岡春灯会の指導者で炭鉱労働の経験を持っておられます。八十一歳。

お礼

有明鉱大災害に関して全国各地の団体、個人の皆さんから三池労組に寄せられたお見舞、カンパ、激電、お便りに心からお礼を申しあげます。

順不同・敬称略（第三次分）

お見舞とカンパ

芦別炭鉱労働組合
砂川炭鉱労働組合

寄せ書

国労、北海道音威子府駅分会青年部
旭川地本名寄保線区分会
東京、日東タイヤ争議団
社青同北海道地区本部
社青同大阪地区本部

決議・激電

〈福　岡〉
全労働福岡支部久留米職安分会、田川職安分会、洞海職安分会、若松分会、八幡職安分会、門司職安分会
高教組水産分会

〈長　野〉
自治労長野県本部青婦部、松本市職労青年部、穂高町役場職員組合

〈北海道〉
全林野労組北見地本丸瀬布婦人部、加藤、戸梶、松本、駒根、今井、佐野、小林、三田、大津、安田、石川、石原、小野、田中、高田、大江、西村、佐藤、田代、神山、岩沢、古沢、山田、上村、高橋、伊豆田、因、安田、藤原
営林署分会　阿部
網走分会　春田
置戸分会　佐藤

短信
トマホーク来るな
基地座り込みも
総評も反対運動

総評は二月八、九日開いた臨時大会で、核巡航ミサイル・トマホークの米太平洋艦隊への配備反対と積載艦船の日本寄港拒否を「当面する最大の課題」と位置づけ、国民運動を展開することを決めた。

真柄事務局長は答弁の中で、日本を前進基地とする太平洋艦隊へのトマホーク配備は「非核三原則を踏みにじり、日本の核基地化に道を開くもの」と指摘、今後、実行委員会を結成、幅広く国民各層と連携して世論を高め、「全国の八～九カ所の米軍基地で座り込むなど、統一行動を展開したい」と語った。

大会で採択された運動方針は「八四年は日本の運命を大きく左右する年」とし、「平和憲法を守り、非核三原則厳守、トマホーク配備、核もち込み拒否、核軍縮実現」などを掲げ、日米両政府への要請や地方議会での「非核宣言」の要請運動などを行うとしている。

ニュース・コーナー

衆院定数是正で自民は二人区をつくる意向。許せば小選挙区制への危険な突破口に。

×　×

ビキニ被災三十周年の贈り物はトマホーク。大運動の再現でお返ししなければ……。